

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭63-160351

⑤ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

④ 公開 昭和63年(1988)7月4日

H 01 L 21/60

6918-5F

審査請求 有 発明の数 1 (全3頁)

⑬ 発明の名称 ICチップの実装方法

⑰ 特 願 昭61-309537

⑱ 出 願 昭61(1986)12月24日

⑲ 発 明 者 藤 田 政 則 東京都墨田区太平4丁目1番1号 株式会社精工舎内

⑳ 出 願 人 株 式 会 社 精 工 舎 東京都中央区京橋2丁目6番21号

㉑ 代 理 人 弁 理 士 最 上 務 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

ICチップの実装方法

2. 特許請求の範囲

ICチップのボンディングパッド上に導電性エラストマ層をICチップの表面より突出させて形成したICチップと、上記ICチップのボンディングパッドに対応した電極を有する電極基板とを対向させ、これを押圧保持するICチップの実装方法。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

この発明はICチップの実装方法に関するものである。

〔従来の技術〕

従来ICチップの実装方法としては、ワイヤーボンディング法が一般的であり、ICのボンディングパッド部にワイヤーボンディングをして、その上を樹脂でポッティングする手段が一般的に

行なわれている。また一部TAB(Tape Automated Bonding)も利用されている。そのほか導電ゴムコネクタを用いる実装法も提案されている。これはポリイミド系などの樹脂にIC基板に設けたバンプに対向する部分に穴を開けて、そこにカーボンを入れたシリコンゴムを充填してなる導電ゴムコネクタを用いるものである(NIKKEI ELECTRONICS MICRODEVICES 1984. 6. 11)。

〔発明が解決しようとする問題点〕

上記従来例において、ワイヤーボンディング法は高価なボンディング装置が必要になる上に、多端子になるとコストアップになる。TAB法はボンディング装置を必要とするほか、ICのボンディングパッドにバンプ電極を形成する工程が複雑でICチップのコストが高くなるという欠点がある。さらに導電ゴムを用いた実装法では、導電ゴムコネクタ、電極基板の3部品を含むので、ICチップと導電ゴムの位置合せをしても、電極基板

まで合せようとする、コネクタがずれたりして位置合せが面倒であった。さらに上記従来例ではいずれも、耐湿性確保のため、接合部をポッティング剤でモールドする必要があるコストアップとなっていた。

〔問題点を解決するための手段〕

この発明は上記従来例における欠点を解決するもので、ICチップのボンディングパッド上に導電性エラストマ層をICチップの表面より高く接合形成したICチップと電極基板とを対向させ、これを押圧保持するものであり、電極基板への実装がきわめて容易にできるものである。

〔実施例〕

第1図示のようにICチップ1のボンディングパッド2上に導電性エラストマ層3を形成する。この導電性エラストマ層3の材料としては、2 μ m以下の表面を金メッキコートしたニッケル粉を混入した未硬化シリコンゴムを用い、メタルマスクを用いてICチップのボンディングパッドの上にしごき印刷した後、シリコンゴムを硬化して形

を使用するとスクライプ時等の工程でべたつかず、作業がしやすい。しかもホットプレート上で位置合せをすることにより仮固定もできるので保持工程も容易にできる。

導電性エラストマ層として粘着性を有するものを用いない場合には、第4図のように、別に粘着剤層8を設けても同様の効果が得られる。実装方法としては、この粘着剤層8は電極基板側に設けてもよい。

導電性エラストマ層3の形成方法はメタルマスクによる印刷法に限定されるものではない。

なお電極基板は位置合せのしやすさを考慮して透明な材料を用いてもよい。

また押圧保持手段は押え金具に限定するものではなく、ボンディングパッド部と引き出し電極間の導通がとれるように押圧できて、しかもその状態を固定保持できるものであれば他の手段であってもよい。

〔発明の効果〕

この発明によるICチップの実装方法によれば、

成する。実際には、この工程はウエハの状態で多数のICを同時に処理した後スクライプして1個ずつのICチップとすればよい。この導電性エラストマ層はICチップ1の表面、すなわち、パシベーション膜4の面より高く形成しておく。

このICチップ1を用いた実装について説明すると、第3図のように、ICチップ1を、そのボンディングパッド2に対向する引出電極5を有する電極基板6と位置合せをして、パネ性を有する押圧保持手段7の押え金具で固定した。

この実装により、ICチップ1のボンディングパッド2と電極基板6の引出電極5とは導通がとれて、民生機器としてはポッティングなしで十分実用に耐えるものであった。

上記導電性エラストマ層として、粘着性を有するエラストマ層を用いることにより、ICチップと電極基板が仮固定され、押え金具で挟む時位置がずれず、保持が容易となる。また室温では非粘着性で、高温になると粘着性を有するシリコンゴムも市販されており、このタイプのエラストマ

ICチップに導電性エラストマ層が一体に形成されるので、電極基板との位置合せが容易であり、電極基板に対して位置合せをして押圧保持するだけでよいので高価な機械設備を要せず、端子数が多くなっても、簡単にしかも一度に全端子の実装ができる。またボンディングパッド部をエラストマ層でモールドした状態になっているので、耐湿性が高く、後でポッティングをしなくても十分実用に耐えられる。さらに不良チップの取り替えが自由にできる。

4. 図面の簡単な説明

図面はこの発明の実施例を示し、第1図はICチップの断面図、第2図は第1図示のICチップの平面図、第3図はICチップを電極基板に実装した状態の断面図、第4図は他の実施例のICチップの断面図である。

1・・・ICチップ

2・・・ボンディングパッド

3・・・導電性エラストマ層

5・・・引出電極

6 . . . 電極基板

7 . . . 押え金具

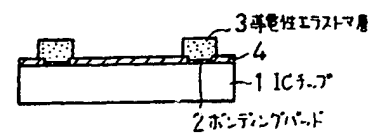
特許出願人 株式会社精工舎

代理人弁理士 最上 務

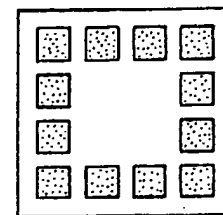
(他1名)



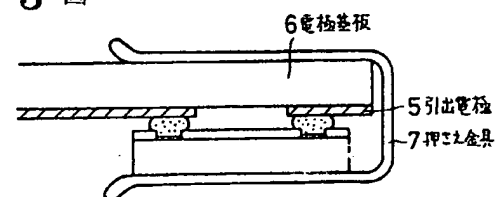
第1図



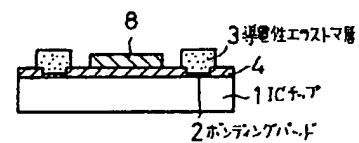
第2図



第3図



第4図



DERWENT-ACC-NO: 1988-224728

COPYRIGHT 1999 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Mounting IC chip - by opposing IC chip with protruded
conductive

elastomer layer on bonding pad of IC chip and electrode substrate
etc.

NoAbstract Dwg 3/4

TIX:

Mounting IC chip - by opposing IC chip with protruded conductive
elastomer

layer on bonding pad of IC chip and electrode substrate etc.

NoAbstract Dwg 3/4